

# 北海道ヘルスケア産業振興協議会の取組 ＜平成28年度の実施報告＞

平成29年3月17日

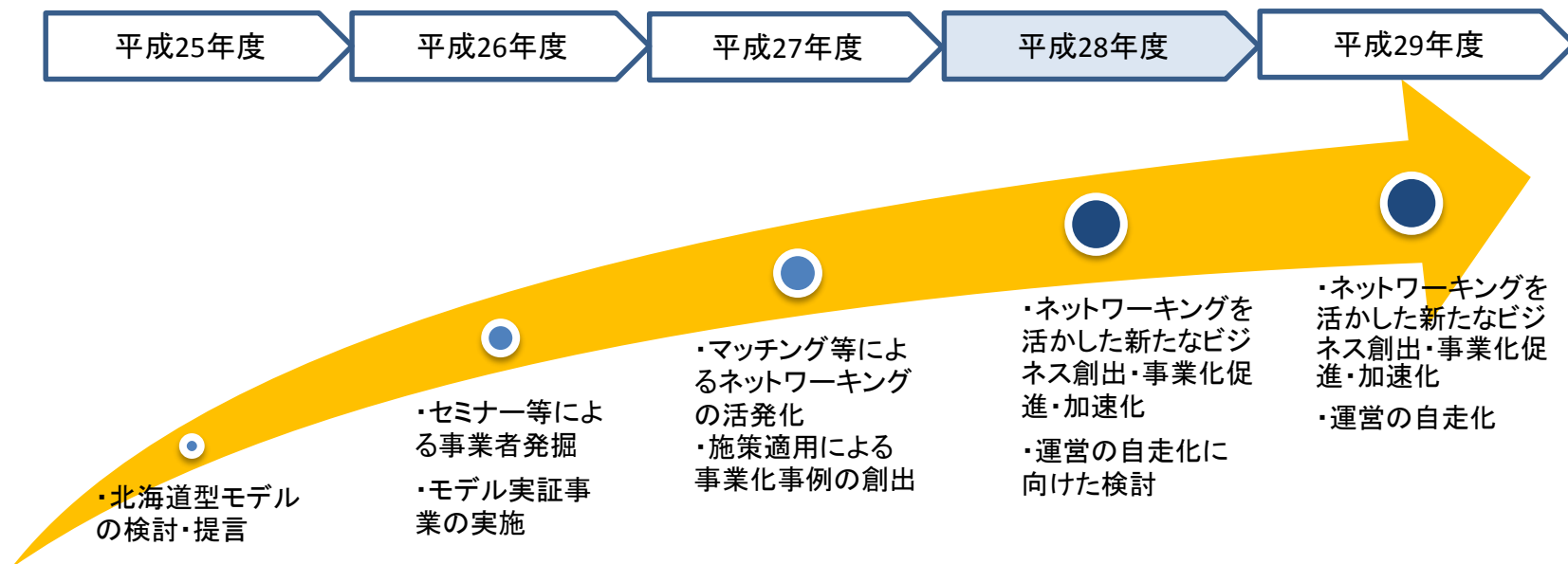
北海道ヘルスケア産業振興協議会事務局

○北海道において、医療・介護機関と民間サービス事業者等との連携を促進することで、地域特性を踏まえたヘルスケア産業を創出・育成し、地域における住民の健康寿命延伸、新産業・雇用創出、医療・介護費の適正化に貢献することを目的に、平成27年4月、民間主体による自発的な活動基盤として「北海道ヘルスケア産業振興協議会」(会長:徳田禎久 社会医療法人禎心会理事長)を設立。(会員数230件:平成29年2月末現在)

## ◆平成28年度の活動方針

1. 異業種連携による新たなビジネス創出・事業化の促進・加速化
2. ヘルスケア産業創出に向けたモデル事業の実践

ヘルスケア産業創出に向けたロードマップ



## 1. 異業種連携による新たなビジネス創出・事業化の促進・加速化

### (1) 異業種連携を促進するプラットフォーム機能の強化

- ① 運営委員会の開催(8月・3月)
- ② 全体会合の開催(9月)

### (2) 協議会活動の情報発信

- ① ヘルスケア産業創出セミナーの開催(3月)
- ② 「いきいき健康・福祉フェア2016」への出展(10月)
- ③ 協議会活動の情報発信(随時)

### (3) WGを基盤とした新たなビジネス創出・事業化支援

- ① 4つのWG毎の最新情報等の提供(11~3月)
- ② ビジネス創出・事業化支援(11~3月)

## 2. ヘルスケア産業創出に向けたモデル事業の実践

### (1) 現役世代の生活習慣病予防から退職後の介護予防までのシームレスサービス実証 (健康寿命延伸産業創出事業)

- ① 現役世代向け生活習慣病予防プログラム(6~2月)
- ② 退職前後のシニアをターゲットとした認知症予防プログラム(6~2月)

### (2) 医・農商工連携モデルの促進

- ① 「きた食dayコンテスト2016」の開催(8~11月)

# 1. 異業種連携による新たなビジネス創出・事業化の促進・加速化

## (1) 異業種連携を促進するプラットフォーム機能の強化

### ① 運営委員会の開催(8月・3月)

北海道ヘルスケア産業振興協議会運営委員会を開催し、協議会の運営について検討。

#### 【平成28年度の検討事項】

- (1) 協議会事業計画について
- (2) 協議会の運営について

#### 【スケジュール】

第1回運営委員会(平成28年8月19日)  
第2回運営委員会(平成29年3月13日)

#### 【運営委員】

◎徳田 禎久	社会医療法人禎心会 理事長
上坂 真智子	お食事のカウンセリングサロンcolan 主宰・管理栄養士
大場 隆志	株式会社ソプラティコ 代表取締役
谷内 好	社会福祉法人溪仁会 理事長
中島 則裕	生活協同組合コープさっぽろ 専務理事
星川 光子	NPO法人いぶりたすけ愛 理事長
渡辺 富士雄	日清医療食品株式会社 北海道支店長

(◎は会長)

### ② 全体会合の開催(9月)

協議会の今年度の事業計画、国や自治体のヘルスケア関連施策、ヘルスケアビジネス創出に係る講演を実施。

【日時】9月2(金)14:30~17:00

【場所】京王プラザホテル

【対象者】協議会会員

【参加者数】91名



#### 【内容】

1. 地域におけるヘルスケアビジネス創出の方向性と課題  
(株)ヘルスケア・ビジネスナレッジ
2. 次世代ヘルスケア産業の創出  
ーアクションプラン2016の概要ー(経済産業省)
3. 平成28年度北海道ヘルスケア産業振興協議会  
事業計画・運営について(事務局)
4. ヘルスケア産業振興に係る情報提供  
(北海道・札幌市・地域医療機能推進機構)

※終了後、交流会を開催

# 1. 異業種連携による新たなビジネス創出・事業化の促進・加速化

## (2) 協議会活動の情報発信

### ①ヘルスケア産業創出セミナーの開催(3月)

地域包括ケアや健康寿命延伸を推進するために今後ますます重要となる公的保険外サービスの創出をテーマとしたセミナーを開催。

会場内の展示コーナーにおいて、協議会会員が取組むヘルスケア関連ビジネスを紹介。

【日時】3月17(金)13:00～15:30 ※展示コーナー:12:30～16:00

【場所】京王プラザホテル札幌

#### 【内容】

#### 1. 講演

地域包括ケアを推進する公的保険外サービスの創出に向けて  
(経済産業省、厚生労働省)

#### 2. 報告

平成28年度北海道ヘルスケア産業振興協議会の活動報告及び今後の取組について  
(株)リクルート北海道じゃらん、(株)ポロワッカ、事務局)

#### 3. その他の取組

地域連携型ヘルスケアビジネス創出事業について(北海道)  
健康関連産業ビジネスモデル構築支援事業について(札幌市)

### ②「いきいき健康・福祉フェア2016」への出展 (10月)

札幌市内で開催される「いきいき健康・福祉フェア2016」において、協議会の各種取組の紹介、会員企業の商品展示等を通じて、関係機関・事業者へのPR、ネットワーク拡大につなげた。

【開催日時】10月14～16日

【開催会場】アクセスサッポロ

#### 【出展内容】

##### ○ブース展示

- ・北海道ヘルスケア産業協議会の取組
- ・複数自治体・民間連携型健康サービス事業
- ・現役世代の生活習慣病予防から退職後の介護予防までのシームレスサービス実証
- ・会員企業(8社)の商品
- ・「きた食dayコンテスト」の紹介 等

##### ○セミナー開催

- ・「腸内フローラと食生活セミナー」  
講師:お食事のカウンセリングサロンcolan  
主宰・管理栄養士 上坂 真智子 氏



# 1. 異業種連携による新たなビジネス創出・事業化の促進・加速化

## (2) 協議会活動の情報発信

### ③ 協議会活動の情報発信(随時)

#### 【広報活動】

・「いきいき健康・福祉フェア2016」等の場を活かして本協議会の活動を紹介。

#### 【情報提供】

・HPやメールを通じて、ヘルスケア関連施策、WG情報、会員等が主催するヘルスケア関連のイベント紹介の情報等を会員に提供。

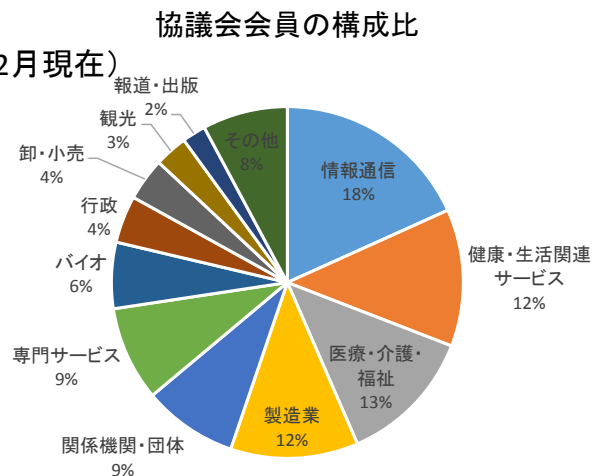
#### 【会員情報の提供】

・会員のプロフィール(企業概要やヘルスケア等に係る取組内容等)を会員に提供。

#### 【会員数】

・230件

(平成29年2月現在)



# 1. 異業種連携による新たなビジネス創出・事業化の促進・加速化

## (3) WGを基盤とした新たなビジネス創出・事業化支援

### ①4つのWG毎の最新情報等の提供(11~3月)

WGテーマごとに最新情報や有識者からの専門知識及びヘルスケアサービスに係る取組に係る地域動向等について、情報提供・意見交換を実施。開催後には懇親会を開催し、講師、会員の交流の場づくりを実施。

#### 【ワーキンググループ開催状況】

合同	『地域をフィールドとしたヘルスケアビジネス創出に向けたポイント』
	『「伝える力」が未来を変える ～今すぐできる強みと価値の整理』
アクティブシニア	『「地域包括ケアシステムを補完する退職前後のシニアをターゲットとした認知症予防プログラム」の報告』
	『スポーツ・健康事業での地方展開・海外展開モデル』
食	『「地域の健康食ネットワークを中心とした現役世代向け生活習慣病予防プログラム」の報告』
	『地域の健康食ネットワークの構築・拡大に向けて』(意見交換会)
地域課題解決	『地域包括ケアシステムを基点とした保険外サービスの創出』
	『「ヘルスケアサービスの地域動向調査」の経過報告』
医療・介護連携	『アクティブシニアを主体とした介護保険外サービスの実践』
	『ウェアラブル・ヒューマンセンシングによる新しいビジネスの形』
	『MBT(Medicine-Based Town) : 医学を基礎とするまちづくりとICT活用』

### ②ビジネス創出・事業化支援(11~3月)

WGや会員プロフィールの情報提供等を通じて会員が取り組みたいヘルスケアビジネスのプロジェクトを事務局に提案してもらい、事業化に向けてプロジェクトを支援。

#### 【プロジェクト支援例】

- 「健康ステーション事業」の検討に係る情報提供やパートナーとのマッチング支援
- 従業員向け運動プログラムの開発に向けた実証支援(事務局の従業員がモニターとして参加)
- 障がい者・認知症高齢者の見守りシステムに関する販路開拓に係るマッチング支援 など

## 2. ヘルスケア産業創出に向けたモデル事業の実践

### (1) 現役世代の生活習慣病予防から退職後の介護予防までのシームレスサービス実証 (健康寿命延伸産業創出事業)

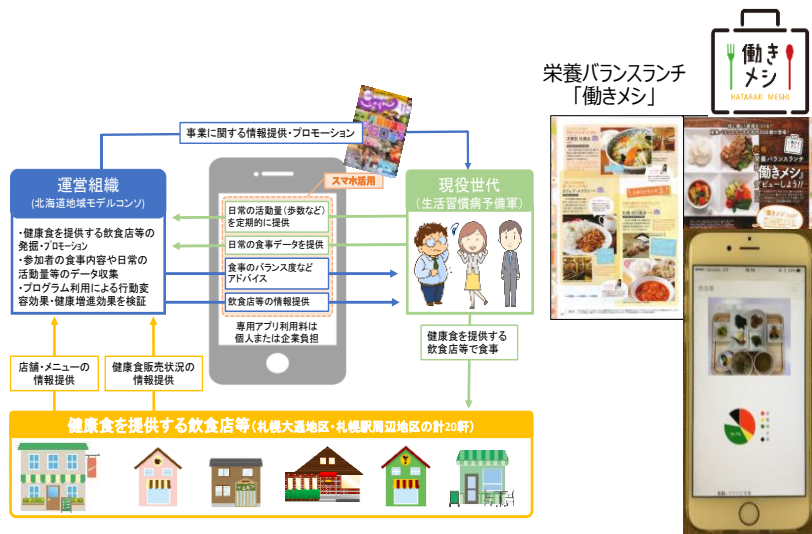
#### ① 現役世代向け生活習慣病予防プログラム(6~2月)

##### 【事業概要】

健康行動を実践・継続できない現役世代を対象として、きっかけや機会を提供する仕組みづくりを実施。

健康食を提供する飲食店を確保し、管理栄養士のアドバイスを得た栄養バランスの良いメニューを「働きメシ」のブランドで各店舗で提供し、現役世代における健康食に係る需要等を検証。

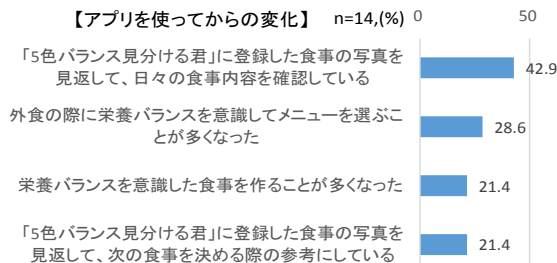
食事の画像の「色」情報から栄養バランスを分析するスマホアプリを実証モニター(現役世代)に提供し、アプリ使用頻度や色見バランスの良さのランキング公表等を行い、アプリ使用を促すイベント効果や、実証期間中の栄養バランス(色見)の変化、生活習慣に係る意識・行動変容等を検証。



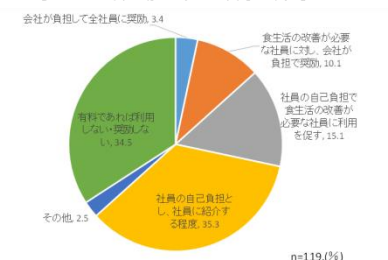
##### 【実証で得られた成果】

「働きメシ」企画では2,045食を提供。自らの健康・食生活を考える、また健康食を提供するお店への関心を高めるきっかけになることを確認。

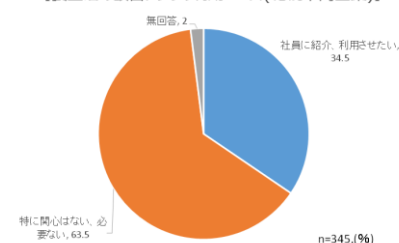
アプリを日常的に利用しているモニターに食生活の改善に係る行動変容あることを確認。



##### 【アプリが有料の場合(札幌市内企業)】



##### 【食生活の改善アプリの利用ニーズ(札幌市内企業)】



##### 【事業化に向けた展開】

- ・アプリの改善、健康管理に係る付加サービスの開発、健康食提供飲食店等の情報掲載等による内容充実を図る。
- ・企業へのアプリを配布、食材関連事業者等からの協賛金によるプロモーションにより情報発信力を高め、飲食店等からの協賛金の確保を進める。





### (2) 医・農商工連携モデルの促進

#### ①「きた食dayコンテスト2016」の開催

医療・福祉施設(管理栄養士・栄養士、調理従事者)を対象に、北海道産素材を活用した美味しい給食献立のコンテスト及び表彰を実施し、給食サービスの向上・高付加価値化、道産素材の利用拡大を啓発。

##### 【主催】きた食dayコンテスト実行委員会

(北海道ヘルスケア産業振興協議会、北海道病院協会、北海道栄養士会、北海道老人福祉施設協議会、ホクレン、ぎょれん、北海道二十一世紀総合研究所)

##### 【協賛】札幌ヤクルト販売(株)

##### 【後援】北海道、(株)北海道新聞社

【対象】: 医療・福祉施設の管理栄養士・栄養士と調理従事者で構成するチーム

【応募件数】60件

【受賞者】

##### ★グランプリ

社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター

##### ☆準グランプリ

社会医療法人耳鼻咽喉科 麻生北見病院

社会医療法人母恋 天使病院

##### ☆特別賞

社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院

医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院

医療法人萌佑会 介護老人福祉施設 ゆあみーる



【展開】コンテスト受賞レシピを商品化し、「丸井今井」札幌本店の「Vivre Ensemble」において発売。